
②地形調査（速報）

■調査実施日

- ・ 深浅測量 : 平成26年10月 7日 ~ 9日
- ・ 航空レーザー測量 : 平成26年10月 8日

■ 地形調査の結果(速報) ～H26.10の地形図～

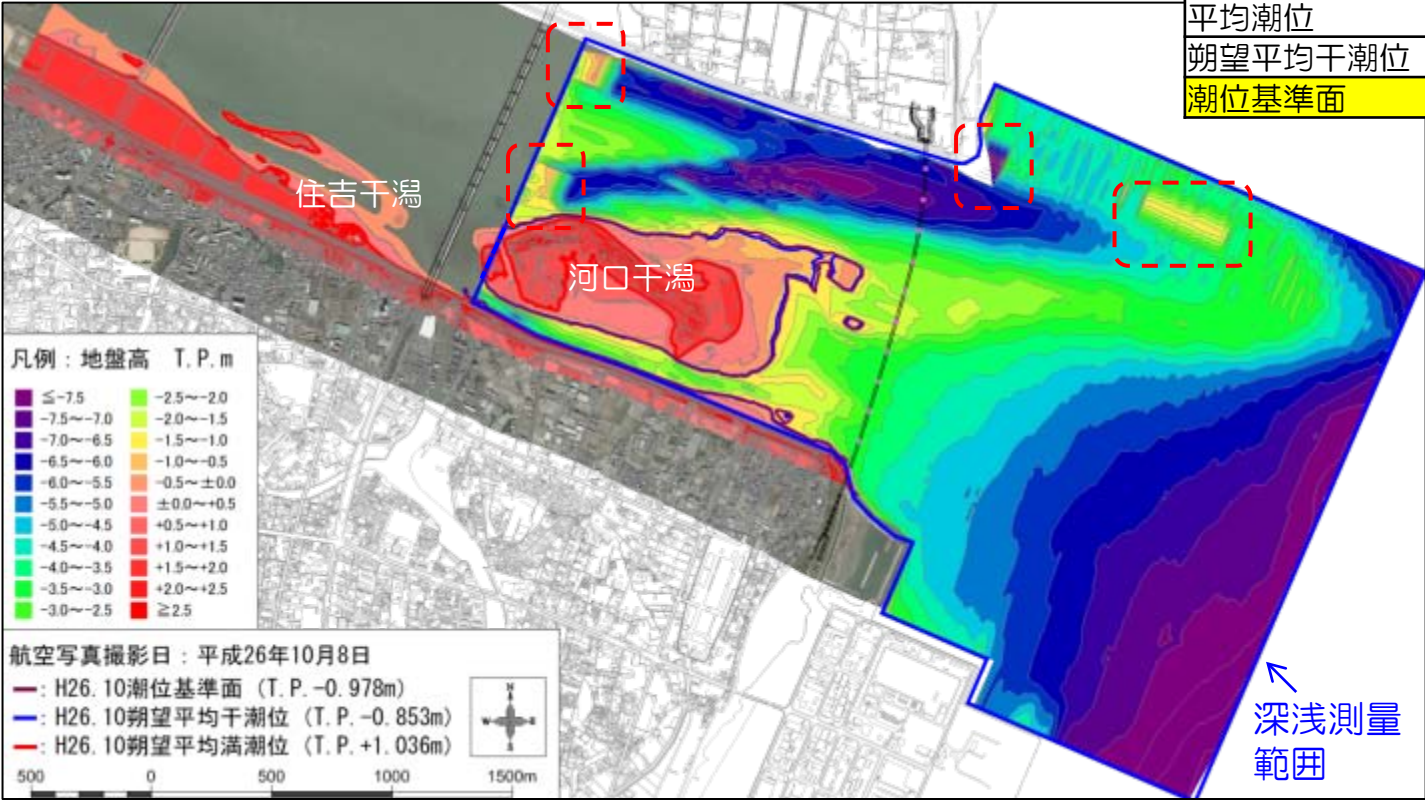


地形調査の結果を地形図に示す。

- ①潮下帯の地形は、深浅測量にて計測（測線間隔 河川側100m、海域北側100m、南側200m）した。
- ②干潟の地形は、航空レーザー測量にて計測した。

⇒調査範囲の地形変化を把握していくために必要な地形図が作成されたと考えられる。

■ 地形図



潮位		河口干潟面積：㎡
朔望平均満潮位	T.P.+1.036m	約232,000
平均潮位	T.P.+0.148m	約364,000
朔望平均干潮位	T.P.-0.853m	約609,000
潮位基準面	T.P.-0.978m ※	約633,801

※朔望平均干潮位、潮位基準面の面積は、深浅測量の範囲の都合上、西端を横断方向に分断して計測している。
 ※河口干潟の面積は、潮位基準面D.L. ±0mにて算出した面積にて比較していく。

注意) 平面図中に示した4箇所赤の囲いは精査中。



■地形調査の結果(速報) ～渡河部周辺の地形変動(潮下帯)①～



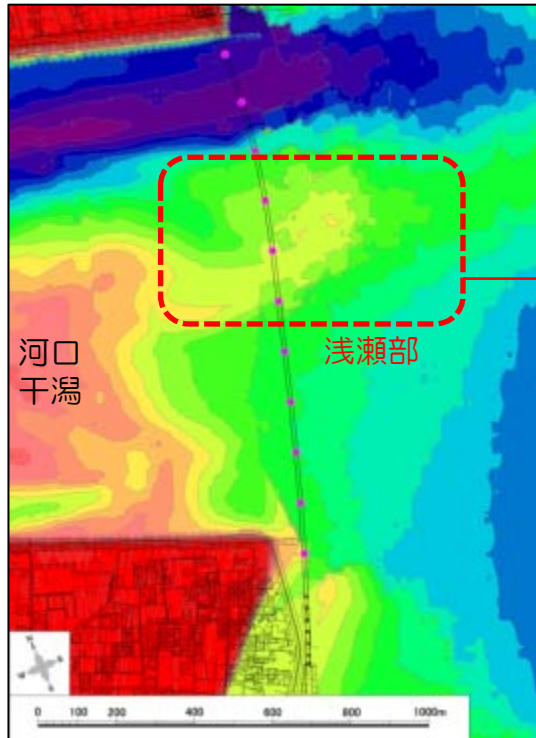
地形図の比較に関する考察を以下に示す。

①河口干潟沖合の浅瀬部では、T.P.-2.0~-1.5mの地盤高が浸食され、T.P.-2.5~-2.0mの地盤高の範囲が拡大している。

②右岸側のみお筋部では、潮間帯が浸食され、その下流域に堆積している。⇒平成26年8月の出水の影響

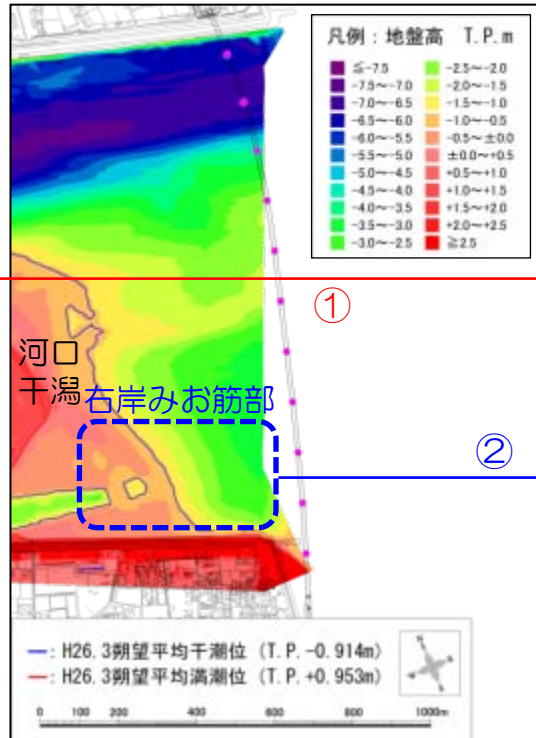
⇒吉野川渡河部周辺の地形は、自然環境において変動していることが推察される(自然のゆらぎ)。

■平成24年5月(国交省)+11月(徳島県)



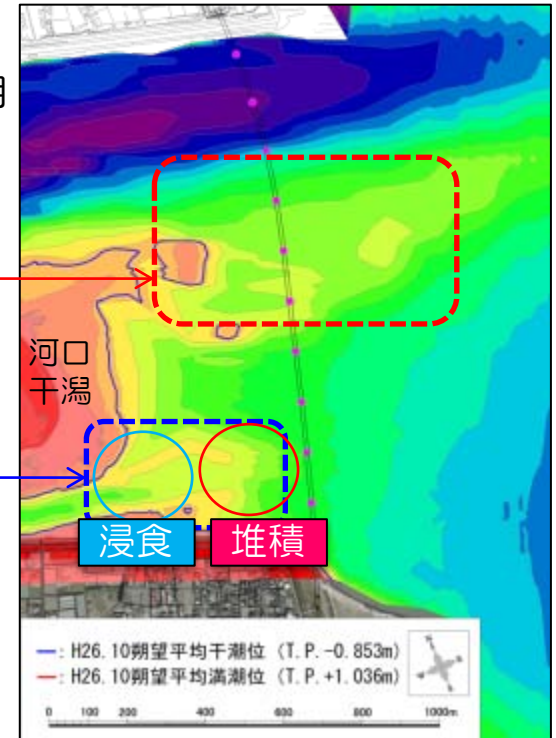
約2年
→

■H26.3月(徳島県)



約7ヶ月
→
※8月に大きな出水有り

■H26.10月(事前調査)



注意) 環境モニタリング調査計画策定時の地形

注意) 徳島県は河川内を対象に調査を実施。
平成26年3月の地形データに関しては、
徳島県にて現時点で精査中のデータである。



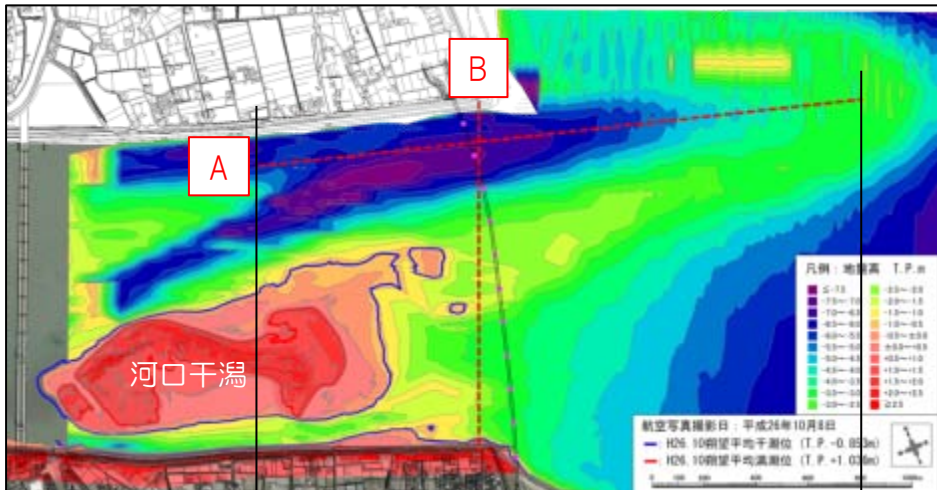
■地形調査の結果(速報) ～渡河部周辺の地形変動(潮下帯)②～



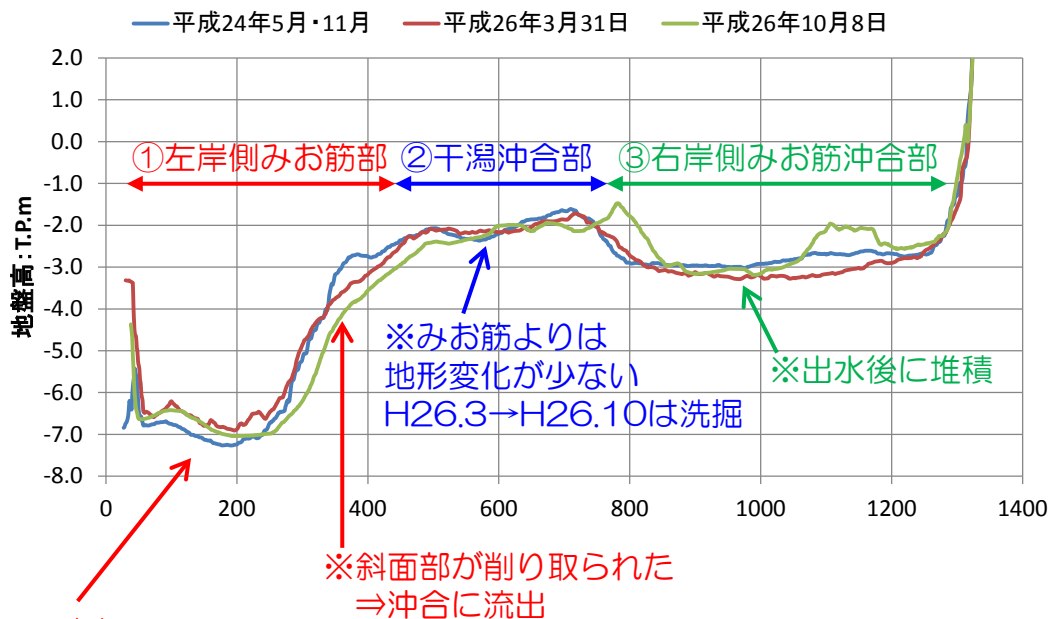
横断線・縦断線の比較に関する考察を以下に示す。(H24.5→H26.3:約2年間、H26.3→H26.10:約7ヶ月間※大出水有り)

- ①左岸側みお筋部 : 出水が生じない間は堆積傾向にあり、出水後は洗掘が見られる。
- ②干潟沖合部 : みお筋と比較すると地形変化は少ないものの、出水後は洗掘が見られる。
- ③右岸側みお筋沖合部 : 出水後はみお筋で洗掘された土砂の堆積が見られる。

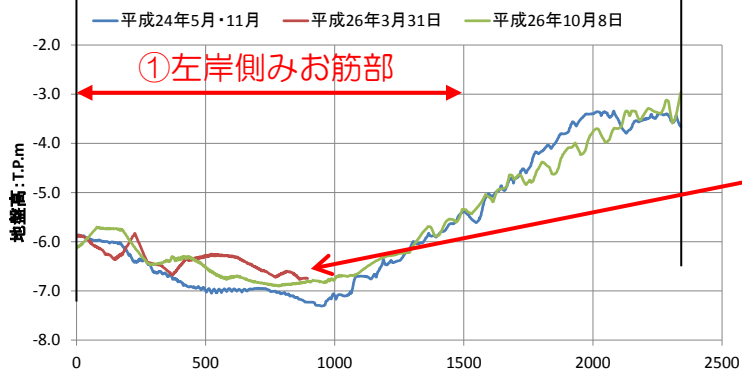
⇒吉野川渡河部周辺の地形は、自然環境において洗掘と堆積を繰り返している地形であることが推察される。



■横断線比較 (平面図中: B)



■縦断線比較 (平面図中: A)



左岸側みお筋部は、出水が生じない間は堆積し、出水が生じた時に洗掘すると考えられる。



注意) 平成26年3月31日の徳島県が実施した地形測量は河川内を対象に調査を実施。
平成26年3月31日の地形データに関しては、徳島県にて現時点で精査中のデータである。

■ 地形調査の結果(速報) ～右岸側のみお筋の状況～



【トピック】 干潮時にはみお筋の潮間帯が干出していたが、平成26年8月の出水後からその状況は見られない。



【補足資料】平成26年8月出水の影響
2014年9月22日(大潮)撮影
干潮時刻10時57分 撮影時刻11時15分頃

